

駒澤大学4-1筑波大学



天王山制し2連覇達成!!

筑波との直接対決制し2年連続V!!

われんばかりの声援。赤く染まったスタンド。西が丘サッカー場で駒大に2年連続2度目の歓喜が訪れた。

最終節を待たずして、優勝の可能性を残している駒大と筑波大との直接対決となった。筑波大にとっては勝たなければ優勝への道が絶たれる。駒大は引き分け以上で優勝が決まるが「引き分けで優勝しようなんて考えてなかった」(田中)。両者最高のモチベーションで天王山は幕を開けた。

前期は6-4と乱打戦を繰り広げた両チームだが、序盤はお互いの様子うかがっているようだった。しばらく均衡した時間帯が続くが優勝のために勝つことしか許されない筑波大が次第に試合の主導権をにぎっていく。

しかし35分、先制したのは駒大。自陣のゴール前からつないだボールを赤嶺が頭で落とし、中田へ。ボールを持った中田は右サイドを駆け上がりゴール前の原にパス。一度はミートしなかったものの筑波大ディフェンスが慌てたのを尻目に原が右足で豪快に決めた。

先制点を挙げリズムに乗った駒大は怒涛の攻撃を仕掛ける。だが、またしても試合は予想外の方向へ転換していき。前半ロスタイム、筑波大藤本の直接フリーキック。鈴木が頭で合わせシュート。一度は牧野がはじくものの、今度は鈴木に右足でシュートを打たれ同点に追いつかれてしまう。

1-1の同点で迎えた後半。いつもはエンジンのかかるのが遅い駒大だがこの日は違った。運動量が落ち始めた筑波大を、後半9分に橋本、11分には再び原のゴールで引き離す。

一方、守備でも立ち上がりボールを回されヒヤツとする場面もあったが「前期は6-4で打ち合いになったけど今日は後半0で抑えようって集中してた(鈴木)」というように安定した守りを見せた。

さらに攻撃の手を休めない駒大

見せたい」と意気込んでいた中田からのコーナーキックを赤嶺が頭で決めダメ押し4点目を挙げ勝利を確かなものにした。

その後も筑波大に反撃のスキを与えず試合終了のホイッスル。ピッチの上の選手たち、ベンチにいる選手たち、スタンドで応援する選手たち、駒大の皆に笑顔がこぼれた。

結果を見れば昨年と同じリーグ優勝。しかし、その内容は昨年とはがらりと違う。「去年はやつぱり深井(正樹・現 鹿嶋さん)と巻(誠一郎・現 市原さん)に頼ってた部分はどうしてもあって(深井・巻)だけで24得点。今年は一一人が責任感を持っていてレベルが上がったと思う」(中田)。というように今年の駒大には絶対的なスター選手はいない。しかしその分チームのためになにをすべきか考える力が選手には身につけていった。優勝出来た理由を尋ねると「団結力があつたから!」。田中は胸を張ってそう言った。

昨年の覇者としておごる姿勢は全くない。開幕前「どのチームに対しても挑戦者の気持ちで戦いたい」と語っていた中田の言葉どおり、皆で団結して戦った結果が2年連続優勝を導いたのだ。

大学3冠は総理大臣杯、リーグ戦、インカレ。駒大は2冠を手にした。まもなく大学最後の戦い、インカレが幕を開ける。駒大の目標は3冠達成、そしてさらには天皇杯でプロを倒すこと。常勝軍団に休みはない。

(永峰 凌)

JR EAST CUP

77th

Kanto University League Soccer

2003